「未来を」「仕事を」「利益を」掴（つか）む グローバル時代、果敢に対応

ベトナム・ハノイ市に進出 （株）遠藤製作所

ステンレスやアルミの精密機械部品加工を主力に、グローバル時代に対応した生産方式の確立を目指してベトナムに進出したものづくり企業がある。量産対応の本社工場、高付加価値・多品種対応の第2工場、低コスト対応と市場開拓のベトナム工場の「三位一体のサポート生産方式」で新たな発展向けて挑戦している（株）遠藤製作所を紹介する。

同社は1949（昭和24）年、遠藤聡代表取締役の祖父の代に山形市銅町で、モーターカバーの機械加工の会社として創業した。高度成長の波に乗って事業は順調に拡大し、昭和62年ごろ、父親の代にマシニングセンター（コンピューター制御による複合切削機）への本格的な取り組みを開始。幅広い分野での部品加工の量産体制を展開し現在の基盤を築いた。工場が手狭になったことから、2006（平成18）年に本社工場を立谷川工業団地に移転する。

同社の歩みを3期に分けるとすれば、創業・株式会社設立・本社工場移転までが第1期。第2期は多品種小ロット、短納期に加えて高い技術が求められる製品や、研究機関からの試作依頼にスピーディーに対応するため2011（平成23）年の第二工場建設。高性能の機器・検査機器を備えた。そして第3期は海外への進出。2012（平成24）年に投資ライセンスを取得し昨年8月、ベトナムの首都ハノイ市のタンロン工業団地に「ベトナム工場」を開設し操業を開始した。コスト対応が求められる汎用部品の生産、クライアントの海外での市場拡販に対応し部品を現地で生産するのが目的。

同時に同社の海外での販路開拓の拠点にという狙いがある。同団地100キロほど東のハイフォンには同社の主力取引先の日本トムソンが工場を展開。一帯には多くの日系企業が多く進出している。切削加工などの部品加工メーカーへの需要は多く、販路開拓の環境は整っている。

第1期の本社工場は「量産対応」。第2期に当たる第二工場は「高付加価値・多品種小ロット対応」。第3期のベトナム工場は「低コスト対応と海外市場拡販」―とそれぞれの工場に特性を持たせた上で、互いに補完し合いながら活性化させる生産方式の確立を目指している。

◇

遠藤聡代表取締役にベトナム進出の経緯、「三位一体のサポート生産方式」などについて聞いた。

―ベトナム進出のきっかけは。

遠藤代表　主力取引先がベトナムに進出しており、「低コスト実現のために部品を現地調達したい」との要望もあり決断しました。また、既に多くの国内メーカーが海外に工場を移転しており、受注を確保するには自らが国外に打って出て行かなければ生き残れないと、いう状況が背景にあります。私どものような規模の工場で海外に出るのは東北でも前例がないかも知れません。

進出先のタンロン工業団地は、日本のデベロッパーが建設。大工場を分割し貸与するアパートメント方式です。レンタル料は割高であっても敷地、建設費が不要でしかも安全が確保されています。尾関誠工場長を中心に、本社工場で研修を受けた現地の方など約30名を雇用しており、予定を上回る生産ペースです。

三位一体のサポート方式

―ベトナム工場を「未来を掴（つか）む工場」と命名した理由と、山形県の経営革新計画の承認を受けた「三位一体のサポート生産方式」について説明してください。

遠藤代表　命名の理由は、変化を恐れずに海外に出ることによって新たなクライアントを獲得し未来を切り開きたいということです。国内雇用を守るための、生き残りをかけた営業ツールとして重要視しています。併せて高付加価値製品開発・多品種小ロット対応をコンセプトとしている第二工場を「仕事を掴む工場」、量産対応の第一工場は「利益を掴む工場」と命名しています。これら特色を持った3つの工場がサービスステーションとなり受注し、「情報を共有しながら、最も適した工場で生産して行こう」というのが三位一体サポート体制による生産方式です。

《（株）遠藤製作所》創業昭和24年。12年後に法人化。平成18年に立谷川工業団地に移転。平成24年に県の経営革新計画の承認を受けてベトナムに進出し25年8月稼働。遠藤聡代表取締役。資本金7千万円。本社：山形市立谷川2―485―10。☎023―685―5015。

（写真上）明るい室内の本社工場にはベトナムからの研修生が学んでいる。「とにかく勤勉で貪欲」と遠藤社長の評価は高い。（写真下）低コスト実現と新たな販路開拓をめざして進出したハノイ・タンロン工業団地のベトナム工場。

―「THE CREATIVE CREW」（ザ・クリエイティブ・クルー）と英文のロゴで自社をPRしていますが。

仲間と共に創造的な仕事を

遠藤代表　私は東京の設計事務所で建築設計の仕事に就いていました。10年前、30歳の時に父が亡くなり帰郷。2年前に母から経営を引き継ぎました。部品製造の経験はまだ浅いのですが、図面を基に現場を管理するという点では建築設計と似ている面があります。また、ものづくりはひとつの自己表現で、建築と同じ楽しさがあります。

英文のロゴは「創造的な仕事をかけがえのない仲間たちと共に」という思いです。役職クラスはほぼ私と同年代で平均年齢は30代半ば。社員は一つの目標へ船を進める仲間です。意見を出し合い、協力し合い、スピード感を持って変化を恐れずにものづくりに取り組んでいきたいと思います。現在の主力品目はリニアガイドハウジングやインクジェットプリンターヘッド部品、電子顕微鏡構成部品等で、電子顕微鏡は一部組み付け（ユニット）まで受注しています。今後はさらにユニットの出荷を強化したいと考えています。海外進出はそのステップです。何としても成功させたいという思いです。